２０２１ 入試対策

２次数学ランドマーク

極　　限

理　系

１９９８ － ２０２０

外林 康治　編著

電送数学舎

極　　限

【問題一覧】

（注）問題番号が，対応する解答例へのハイパーリンクになっています。

1　n を正の整数とする。連立不等式

$$x+y+z \leqq n,\ -x+y-z \leqq n,\ x-y-z \leqq n,\ -x-y+z \leqq n$$

をみたす xyz 空間の点 $\mathrm{P}(x,\ y,\ z)$ で, x, y, z がすべて整数であるものの個数を $f(n)$ とおく。極限 $\displaystyle\lim_{n\to\infty}\frac{f(n)}{n^3}$ を求めよ。　［1998 東京大］

2　A 地点から B 地点まで 0 または 1 の一文字からなる信号を送る。A 地点と B 地点の間に中継点を $2n-1$ 箇所作り AB 間を $2n$ 個の小区間に分割すると, 一つの区間において 0 と 1 が逆転して伝わる確率は $\dfrac{1}{4n}$ である。このとき A 地点を発した信号 0 が B 地点に 0 として伝わる確率を P_{2n} とする。次の各問いに答えよ。

(1)　偶数回の逆転があると, A 地点で発した信号 0 が B 地点に 0 として伝わることに注意して P_2 を求めよ。

(2)　$(a+b)^{2n}+(a-b)^{2n}=2\displaystyle\sum_{k=0}^{n}{}_{2n}\mathrm{C}_{2k}\,a^{2n-2k}b^{2k}$ を示せ。

(3)　P_{2n} を求めよ。

(4)　$\displaystyle\lim_{n\to\infty}P_{2n}$ を求めよ。　［1998 神戸大］

3　関数 $f(x)=1-x^2$ について, 次の問いに答えよ。

(1)　$f(a)=a$ を満たす正の実数 a を求めよ。

(2)　a を(1)で求めた実数とする。$x \geqq \dfrac{1}{2}$ ならば, $|f(x)-f(a)| \geqq \dfrac{\sqrt{5}}{2}|x-a|$ となることを示せ。

(3)　a を(1)で求めた実数とする。$\dfrac{1}{2} \leqq x_1 \leqq 1$ として,

$$x_{n+1}=f(x_n)\quad (n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots\cdots)$$

で決まる数列 $\{x_n\}$ を考える。すべての n に対して $\dfrac{1}{2} \leqq x_n \leqq 1$ が成り立つならば, $x_1=a$ であることを示せ。　［1999 九州大］

4　数列 $\{a_n\}$ の初項 a_1 から第 n 項 a_n までの和を S_n と表す。この数列が $a_1=1$, $\displaystyle\lim_{n\to\infty}S_n=1$, $n(n-2)a_{n+1}=S_n\ (n \geqq 1)$ を満たすとき, 一般項 a_n を求めよ。

［2002 京都大］

5 関数 $f(x)=4x-x^2$ に対し，数列 $\{a_n\}$ を

$$a_1=c\,,\ \ a_{n+1}=\sqrt{f(a_n)}\quad (n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$$

で与える。ただし, c は $0<c<2$ を満たす定数である。

(1) $a_n<2$，$a_n<a_{n+1}$ $(n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$ を示せ。

(2) $2-a_{n+1}<\dfrac{2-c}{2}(2-a_n)$ $(n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$ を示せ。

(3) $\lim\limits_{n\to\infty}a_n$ を求めよ。 ［2003 東北大］

6 座標平面上で, x 座標と y 座標がともに整数である点を格子点と呼ぶ。格子点を頂点とし, 辺の長さが 1 である正方形（周は含まない）を単位正方形と呼ぶことにする。p, n を自然数とし, 領域 $D_n=\{(x,\ y)\mid 0\leqq x,\ x^p\leqq y\leqq n\}$ を考え, その面積を S_n とする。L_n と M_n を, それぞれ D_n に含まれる格子点の個数および単位正方形の個数とする。

(1) グラフ $y=x^p$ $\left(0\leqq x\leqq n^{\frac{1}{p}}\right)$ と交わる単位正方形の個数は n であることを示せ。

(2) 不等式 $M_n<S_n<M_n+n$ を示せ。また, 面積 S_n を求めよ。

(3) 極限値 $\lim\limits_{n\to\infty}n^{-\frac{p+1}{p}}L_n$ を求めよ。 ［2003 九州大］

7 曲線 $C:y=e^x$ 上の異なる 2 点 $\mathrm{A}(a,\ e^a)$，$\mathrm{P}(t,\ e^t)$ における C のそれぞれの法線の交点を Q として, 線分 AQ の長さを $L_a(t)$ で表す。さらに, $r(a)=\lim\limits_{t\to a}L_a(t)$ と定義する。

(1) $r(a)$ を求めよ。

(2) a が実数全体を動くとき，$r(a)$ の最小値を求めよ。 ［2005 筑波大］

8 $a_1=\dfrac{1}{2}$ とし, 数列 $\{a_n\}$ を漸化式

$$a_{n+1}=\frac{a_n}{(1+a_n)^2}\quad (n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$$

によって定める。このとき, 以下の問いに答えよ。

(1) 各 $n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots$ に対し $b_n=\dfrac{1}{a_n}$ とおく。$n>1$ のとき, $b_n>2n$ となることを示せ。

(2) $\lim\limits_{n\to\infty}\dfrac{1}{n}(a_1+a_2+\cdots+a_n)$ を求めよ。

(3) $\lim\limits_{n\to\infty}na_n$ を求めよ。 ［2006 東京大］

9 x, y を相異なる正の実数とする。数列$\{a_n\}$を

$$a_1=0,\ a_{n+1}=xa_n+y^{n+1}\ (n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$$

によって定めるとき，$\lim_{n\to\infty}a_n$ が有限の値に収束するような座標平面上の点$(x,\ y)$の範囲を図示せよ。 [2007 京都大]

10 n を 2 以上の自然数とする。平面上の$\triangle \mathrm{OA_1A_2}$は$\angle \mathrm{OA_2A_1}=90^\circ$，$\mathrm{OA_1}=1$，$\mathrm{A_1A_2}=\dfrac{1}{\sqrt{n}}$を満たすとする。$\mathrm{A_2}$から$\mathrm{OA_1}$へ垂線を下ろし，交点を$\mathrm{A_3}$とする。$\mathrm{A_3}$から$\mathrm{OA_2}$へ垂線を下ろし，交点を$\mathrm{A_4}$とする。以下同様に，$k=4,\ 5,\ \cdots$について，$\mathrm{A}_k$から$\mathrm{OA}_{k-1}$へ垂線を下ろし，交点を$\mathrm{A}_{k+1}$として，順番に$\mathrm{A_5}$，$\mathrm{A_6}$，$\cdots$を定める。$\overrightarrow{h_k}=\overrightarrow{\mathrm{A}_k\mathrm{A}_{k+1}}$とおくとき，以下の問いに答えよ。

(1) $k=1,\ 2,\ \cdots$のとき，ベクトル$\overrightarrow{h_k}$と$\overrightarrow{h_{k+1}}$の内積$\overrightarrow{h_k}\cdot\overrightarrow{h_{k+1}}$を n と k で表せ。

(2) $S_n=\displaystyle\sum_{k=1}^{n}\overrightarrow{h_k}\cdot\overrightarrow{h_{k+1}}$とおくとき，極限値$\lim_{n\to\infty}S_n$を求めよ。ここで，自然対数の底 e について，$e=\lim_{n\to\infty}\left(1+\dfrac{1}{n}\right)^n$であることを用いてもよい。 [2008 東北大]

11 実数xに対し，x以上の最小の整数を$f(x)$とする。$a,\ b$を正の実数とするとき，極限$\lim_{x\to\infty}x^c\left(\dfrac{1}{f(ax-7)}-\dfrac{1}{f(bx+3)}\right)$が収束するような実数 c の最大値と，そのときの極限値を求めよ。 [2008 東京工大]

12 正の実数 r と$-\dfrac{\pi}{2}<\theta<\dfrac{\pi}{2}$の範囲の実数$\theta$に対して，$a_0=r\cos\theta$，$b_0=r$とおく。$a_n$，$b_n$ $(n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$を漸化式

$$a_n=\frac{a_{n-1}+b_{n-1}}{2},\ b_n=\sqrt{a_nb_{n-1}}$$

により定める。以下の問いに答えよ。

(1) $\dfrac{a_1}{b_1}$，$\dfrac{a_2}{b_2}$をθで表せ。

(2) $\dfrac{a_n}{b_n}$を n と θ で表せ。

(3) $\theta\neq0$のとき，$\lim_{n\to\infty}a_n=\lim_{n\to\infty}b_n=\dfrac{r\sin\theta}{\theta}$を示せ。 [2010 北海道大]

13 aを正の整数とする。正の実数xについての方程式

$$(*) \qquad x=\left[\frac{1}{2}\left(x+\frac{a}{x}\right)\right]$$

が解をもたないような a を小さい順に並べたものをa_1，a_2，a_3，…とする。ここに[ ]はガウス記号で，実数uに対し，$[u]$はu以下の最大の整数を表す。

(1) $a=7,\ 8,\ 9$の各々について(＊)の解があるかどうかを判定し，ある場合は解 x を求めよ。

(2) a_1，a_2を求めよ。

(3) $\displaystyle\sum_{n=1}^{\infty}\frac{1}{a_n}$を求めよ。 [2010 東京工大]

14 aが正の実数のとき$\displaystyle\lim_{n\to\infty}(1+a^n)^{\frac{1}{n}}$を求めよ。 [2012 京都大]

15 数列$\{a_n\}$を

$$a_1=1,\ a_{n+1}=\sqrt{\frac{3a_n+4}{2a_n+3}} \quad (n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$$

で定める。以下の問いに答えよ。

(1) $n\geqq 2$のとき，$a_n>1$となることを示せ。

(2) $\alpha^2=\dfrac{3\alpha+4}{2\alpha+3}$を満たす正の実数$\alpha$を求めよ。

(3) すべての自然数nに対して$a_n<\alpha$となることを示せ。

(4) $0<r<1$を満たすある実数rに対して，不等式

$$\frac{\alpha-a_{n+1}}{\alpha-a_n}\leqq r \quad (n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$$

が成り立つことを示せ。さらに，極限$\displaystyle\lim_{n\to\infty}a_n$を求めよ。 [2012 東北大]

16 正の整数 n に対し，$0\leqq x\leqq\dfrac{\pi}{2}$の範囲において$\sin 4nx\geqq\sin x$を満たす x の区間の長さの総和をS_nとする。このとき，$\displaystyle\lim_{n\to\infty}S_n$を求めよ。 [2013 東京工大]

17 数列$\{a_n\}$を，$a_1=5$，$a_{n+1}=\dfrac{4a_n-9}{a_n-2}$ $(n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$で定める。また，数列$\{b_n\}$を，$b_n=\dfrac{a_1+2a_2+\cdots+na_n}{1+2+\cdots+n}$ $(n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$と定める。

(1) 数列$\{a_n\}$の一般項を求めよ。

(2) すべての n に対して，不等式 $b_n \leqq 3+\dfrac{4}{n+1}$ が成り立つことを示せ。

(3) 極限値 $\lim\limits_{n\to\infty} b_n$ を求めよ。 [2015 東京工大]

18 xy 平面において，x 座標と y 座標がともに整数である点を格子点という。また，実数 a に対して，a 以下の最大の整数を$[\,a\,]$で表す。記号[ ]をガウス記号という。以下の問いではNを自然数とする。

(1) n を$0\leqq n\leqq N$を満たす整数とする。点$(n,\ 0)$と点$\left(n,\ N\sin\left(\dfrac{\pi n}{2N}\right)\right)$を結ぶ線分上にある格子点の個数をガウス記号を用いて表せ。

(2) 直線$y=x$と，x 軸，および直線$x=N$で囲まれた領域（境界を含む）にある格子点の個数を$A(N)$とおく。このとき$A(N)$を求めよ。

(3) 曲線$y=N\sin\left(\dfrac{\pi x}{2N}\right)$ $(0\leqq x\leqq N)$と，x 軸，および直線$x=N$で囲まれた領域（境界を含む）にある格子点の個数を$B(N)$とおく。(2)の$A(N)$に対して$\lim\limits_{N\to\infty}\dfrac{B(N)}{A(N)}$を求めよ。 [2017 筑波大]

19 k を 2 以上の整数とする。また，$f(x)=\dfrac{1}{k}\left((k-1)x+\dfrac{1}{x^{k-1}}\right)$とおく。以下の問いに答えよ。

(1) $x>0$において，関数$y=f(x)$の増減と漸近線を調べてグラフの概形をかけ。

(2) 数列$\{x_n\}$が$x_1>1$，$x_{n+1}=f(x_n)$ $(n=1,\ 2,\ \cdots)$を満たすとき，$x_n>1$を示せ。

(3) (2)の数列$\{x_n\}$に対し，$x_{n+1}-1<\dfrac{k-1}{k}(x_n-1)$を示せ。また$\lim\limits_{n\to\infty}x_n$を求めよ。

[2018 神戸大]

20 aを実数とし，数列$\{x_n\}$を次の漸化式によって定める。

$$x_1=a,\ x_{n+1}=x_n+{x_n}^2\quad(n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$$

(1) $a>0$のとき，数列$\{x_n\}$が発散することを示せ。

(2) $-1<a<0$のとき，すべての正の整数 n に対して$-1<x_n<0$が成り立つことを示せ。

(3) $-1<a<0$のとき，数列$\{x_n\}$の極限を調べよ。 [2019 東北大]

21 数列$\{a_n\}$を$a_n=\dfrac{1}{2^n}$ $(n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$で定める。以下の問いに答えよ。

(1) $t>0$のとき，$1\leqq\dfrac{e^t-1}{t}\leqq e^t$であることを示せ。

(2) 数列$\{x_n\}$，$\{y_n\}$，$\{z_n\}$を

$$x_n=\log(e^{a_n}+1)\text{，}\ y_n=\log(e^{a_n}-1)\text{，}\ z_n=y_n+\sum_{k=1}^{n}x_k\quad(n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$$

で定める。z_nはnによらない定数であることを示せ。

(3) $\displaystyle\sum_{k=1}^{\infty}\log\left(\frac{e^{a_k}+1}{2}\right)$を求めよ。 [2019 筑波大]

22 pを正の整数とする。α，βはxに関する方程式$x^2-2px-1=0$の 2 つの解で，$|\alpha|>1$であるとする。

(1) すべての正の整数 n に対し，$\alpha^n+\beta^n$は整数であり，さらに偶数であることを証明せよ。

(2) 極限$\displaystyle\lim_{n\to\infty}(-\alpha)^n\sin(\alpha^n\pi)$を求めよ。 [2020 京都大]

23 $0<r<1$とし，半径 1 の円C_1と半径rの円C_2の中心は一致しているとする。円C_1に内接し，円C_2に外接する円をできるだけたくさん描く。ただし，どの 2 つの円も共有点の個数は 1 以下とする。描いた円の円周の長さの総和を$f(r)$とするとき，$\displaystyle\lim_{r\to1-0}f(r)$を求めよ。 [2020 信州大]

極　　限

【解答例と解説】

（注）問題番号が，対応する問題ページへのハイパーリンクになっています。

1 ［1998 東京大］

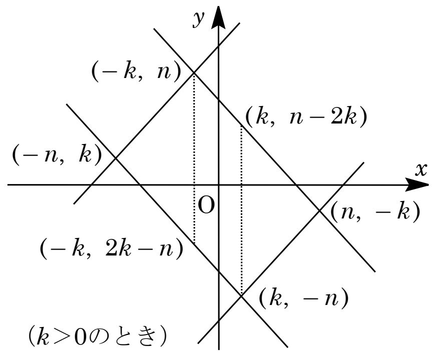
$z=k$ での切り口を考える。

$x+y+k\leqq n$ より，$y\leqq -x+n-k$

$-x+y-k\leqq n$ より，$y\leqq x+n+k$

$x-y-k\leqq n$ より，$y\geqq x-(n+k)$

$-x-y+k\leqq n$ より，$y\geqq -x-(n-k)$



切り口の存在する条件は,

$n-k\geqq -(n-k)$ かつ $n+k\geqq -(n+k)$

よって，$-n\leqq k\leqq n$

境界線の交点は,

$y=-x+n-k$ かつ $y=x+n+k$ より，$(x,\ y)=(-k,\ n)$

$y=-x+n-k$ かつ $y=x-(n+k)$ より，$(x,\ y)=(n,\ -k)$

$y=-x-(n-k)$ かつ $y=x+n+k$ より，$(x,\ y)=(-n,\ k)$

$y=-x-(n-k)$ かつ $y=x-(n+k)$ より，$(x,\ y)=(k,\ -n)$

$z=k$ 上での格子点の個数を $f_k(n)$ とすると,

$$\begin{aligned}f_k(n)&=2\left\{1+3+5+\cdots\cdots+(2n-2k+1)\right\}+(2n-2k+1)(2k-1)\\&=2\cdot\frac{1+(2n-2k+1)}{2}\cdot(n-k+1)+(2n-2k+1)(2k-1)\\&=2(n-k+1)^2+\left\{2(n-k+1)-1\right\}(2k-1)\end{aligned}$$

以上より，$f(n)=\displaystyle\sum_{k=-n}^{n}f_k(n)=\sum_{k=-n}^{n}\left[\,2(n-k+1)^2+\left\{2(n-k+1)-1\right\}(2k-1)\,\right]$

ここで，$n-k+1=l$ とおくと,

$$\begin{aligned}f(n)&=\sum_{l=1}^{2n+1}\left\{2l^2+(2l-1)(2n+1-2l)\right\}=\sum_{l=1}^{2n+1}\left\{-2l^2+4(n+1)l-(2n+1)\right\}\\&=-\frac{2}{3}(2n+1)(n+1)(4n+3)+4(n+1)^2(2n+1)-(2n+1)^2\\&=\frac{1}{3}(2n+1)(4n^2+4n+3)\end{aligned}$$

よって，$\displaystyle\lim_{n\to\infty}\frac{f(n)}{n^3}=\frac{1}{3}\lim_{n\to\infty}\left(2+\frac{1}{n}\right)\left(4+\frac{4}{n}+\frac{3}{n^2}\right)=\frac{8}{3}$

［解 説］

4 平面で囲まれた領域にある格子点の個数を求める頻出問題です。平面の方程式は知っていて当然というのが，出題者からのメッセージです。

２ ［1998 神戸大］

(1) $n=1$ のとき, A 地点から B 地点まで信号の逆転が起こらない確率は $\left(1-\dfrac{1}{4}\right)^2$, 逆転が 2 回起こる確率は $\left(\dfrac{1}{4}\right)^2$ より,

$$P_2=\left(1-\frac{1}{4}\right)^2+\left(\frac{1}{4}\right)^2=\frac{9}{16}+\frac{1}{16}=\frac{5}{8}$$

(2)
$$(a+b)^{2n}=\sum_{k=0}^{n}{}_{2n}\mathrm{C}_{2k}\,a^{2n-2k}b^{2k}+\sum_{k=1}^{n}{}_{2n}\mathrm{C}_{2k-1}\,a^{2n-2k+1}b^{2k-1}\cdots\cdots\cdots①$$

$$\begin{aligned}(a-b)^{2n}&=\sum_{k=0}^{n}{}_{2n}\mathrm{C}_{2k}\,a^{2n-2k}(-b)^{2k}+\sum_{k=1}^{n}{}_{2n}\mathrm{C}_{2k-1}\,a^{2n-2k+1}(-b)^{2k-1}\\&=\sum_{k=0}^{n}{}_{2n}\mathrm{C}_{2k}\,a^{2n-2k}b^{2k}-\sum_{k=1}^{n}{}_{2n}\mathrm{C}_{2k-1}\,a^{2n-2k+1}b^{2k-1}\cdots\cdots\cdots②\end{aligned}$$

①＋②より

$$(a+b)^{2n}+(a-b)^{2n}=2\sum_{k=0}^{n}{}_{2n}\mathrm{C}_{2k}\,a^{2n-2k}b^{2k}\cdots\cdots\cdots③$$

(3) A 地点から B 地点まで信号の逆転が, 0, 2, 4, ……, $2n$ 回のとき, 0 が 0 として伝わるので, $p_n=\dfrac{1}{4n}$, $q_n=1-\dfrac{1}{4n}$ とおくと,

$$\begin{aligned}P_n&={q_n}^{2n}+{}_{2n}\mathrm{C}_2\,{p_n}^2{q_n}^{2n-2}+{}_{2n}\mathrm{C}_4\,{p_n}^4{q_n}^{2n-4}+\cdots\cdots\cdots+{}_{2n}\mathrm{C}_{2n-2}\,{p_n}^{2n-2}{q_n}^2+{p_n}^{2n}\\&=\sum_{k=0}^{n}{}_{2n}\mathrm{C}_{2k}\,{q_n}^{2n-2k}{p_n}^{2k}\\&=\frac{1}{2}\left\{(q_n+p_n)^{2n}+(q_n-p_n)^{2n}\right\}\quad（③より）\\&=\frac{1}{2}\left\{1+\left(1-\frac{1}{2n}\right)^{2n}\right\}\end{aligned}$$

(4)
$$\lim_{n\to\infty}P_{2n}=\frac{1}{2}\lim_{n\to\infty}\left\{1+\left(1-\frac{1}{2n}\right)^{2n}\right\}=\frac{1}{2}\lim_{n\to\infty}\left\{1+\left(\left(1+\frac{1}{-2n}\right)^{-2n}\right)^{-1}\right\}=\frac{1}{2}\left(1+\frac{1}{e}\right)$$

［解 説］

最近はやりの通信を題材とした問題です。非常にていねいな誘導がついています。特に(1)は親切すぎるのではないかと思えるほどです。

$\boxed{3}$　　[1999 九州大]

(1)　$f(a)=a$ より，$1-a^2=a$，$a^2+a-1=0$

$a>0$ より，$a=\dfrac{-1+\sqrt{5}}{2}$

(2)　$|f(x)-f(a)|=|1-x^2-(1-a^2)|=|-(x+a)(x-a)|=|x+a||x-a|$

ここで条件より，$|x+a|\geqq\left|\dfrac{1}{2}+\dfrac{-1+\sqrt{5}}{2}\right|=\dfrac{\sqrt{5}}{2}$

よって，$|f(x)-f(a)|\geqq\dfrac{\sqrt{5}}{2}|x-a|$

(3)　$x_{n+1}=f(x_n)$，$a=f(a)$ なので，$x_n\geqq\dfrac{1}{2}$ のとき(2)より，

$$|x_{n+1}-a|=|f(x)-f(a)|\geqq\frac{\sqrt{5}}{2}|x-a|$$

よって，$|x_n-a|\geqq|x_1-a|\left(\dfrac{\sqrt{5}}{2}\right)^{n-1}$

(i)　$x_1-a\neq0$ のとき

$n\to\infty$ のとき $|x_n-a|\to\infty$ となるので，すべての n に対しては $x_n\leqq1$ が成立しない。

(ii)　$x_1-a=0$ のとき

$a=f(a)$ なので，すべての n に対して $x_n=a$ となる。

(1)より，$\dfrac{1}{2}\leqq a\leqq1$ なので，すべての n に対して $\dfrac{1}{2}\leqq x_n\leqq1$ が成り立つ。

(i)(ii)より，$x_1=a$ の場合のみ題意が成立する。

［解　説］

(2)の不等式は，(3)で定義された数列の発散条件に対応することがわかります。これを(3)の題意に結びつけることがポイントです。

$\boxed{4}$ [2002 京都大]

条件より，$n(n-2)a_{n+1}=S_n\ (n\geqq 1)$ ………①

$(n-1)(n-3)a_n=S_{n-1}\ (n\geqq 2)$ ………②

①－②より，$n(n-2)a_{n+1}-(n-1)(n-3)a_n=a_n$，$n(n-2)a_{n+1}=(n-2)^2a_n$

$n\geqq 3$ で，$na_{n+1}=(n-2)a_n$

$n(n-1)a_{n+1}=(n-1)(n-2)a_n$

よって，$(n-1)(n-2)a_n=(3-1)(3-2)a_3=2a_3$

$$a_n=\frac{2a_3}{(n-1)(n-2)}\ (n\geqq 3)$$

ここで，①に $n=1$ を代入すると，$1\cdot(-1)a_2=S_1$，$-a_2=a_1$ より，$a_2=-a_1=-1$

さて, $n\geqq 3$ で，$S_n=a_1+a_2+\displaystyle\sum_{k=3}^{n}a_k=1-1+\sum_{k=3}^{n}\frac{2a_3}{(k-1)(k-2)}$

$$=2a_3\sum_{k=3}^{n}\left(\frac{1}{k-2}-\frac{1}{k-1}\right)=2a_3\left(1-\frac{1}{n-1}\right)$$

条件より，$\displaystyle\lim_{n\to\infty}S_n=1$ なので，$2a_3=1$，$a_3=\dfrac{1}{2}$

以上より，$a_1=1$，$a_2=-1$，$a_n=\dfrac{1}{(n-1)(n-2)}\ (n\geqq 3)$

［解 説］

①に $n=2$ を代入して a_3 の値を求めようとしましたが，$0\cdot a_3=0$ となり，何も得られませんでした。そこで，$\displaystyle\lim_{n\to\infty}S_n=1$ の利用となったわけです。

5　　　　［2003 東北大］

(1)　$0<a_n<2$ であることを数学的帰納法を用いて示す。

(i)　$n=1$ のとき　$a_1=c$　$(0<c<2)$ より成立する。

(ii)　$n=k$ のとき　$0<a_k<2$ が成立すると仮定する。

ここで，$f(a_k)=4a_k-{a_k}^2=-(a_k-2)^2+4$ で，$0<a_k<2$ より，$0<f(a_k)<4$ すなわち $0<\sqrt{f(a_k)}<2$ となる。よって，$0<a_{k+1}<2$ が成立する。

(i)(ii)より，$0<a_n<2$ が成立する。

また，$a_{n+1}-a_n=\sqrt{4a_n-{a_n}^2}-a_n=\dfrac{4a_n-{a_n}^2-{a_n}^2}{\sqrt{4a_n-{a_n}^2}+a_n}=\dfrac{2a_n(2-a_n)}{\sqrt{4a_n-{a_n}^2}+a_n}>0$

よって，$a_n<a_{n+1}$ が成立する。

(2)　まず，$2-a_{n+1}=2-\sqrt{4a_n-{a_n}^2}=\dfrac{4-(4a_n-{a_n}^2)}{2+\sqrt{4a_n-{a_n}^2}}=\dfrac{2-a_n}{2+\sqrt{4a_n-{a_n}^2}}(2-a_n)$

ここで，$c=a_1\leqq a_n$ より $0<2-a_n\leqq 2-c$，また $2+\sqrt{4a_n-{a_n}^2}>2$ なので，

$$0<\frac{2-a_n}{2+\sqrt{4a_n-{a_n}^2}}<\frac{2-c}{2}$$

よって，$2-a_{n+1}<\dfrac{2-c}{2}(2-a_n)$ となる。

(3)　(2)より，$0<2-a_n\leqq(2-a_1)\left(\dfrac{2-c}{2}\right)^{n-1}$　（等号は $n=1$ のとき成立）

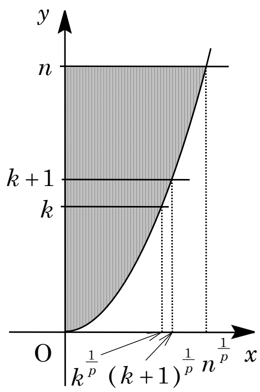
$0<\dfrac{2-c}{2}<1$ より，$n\to\infty$ のとき $\left(\dfrac{2-c}{2}\right)^{n-1}\to 0$ となるので，$2-a_n\to 0$

よって，$\displaystyle\lim_{n\to\infty}a_n=2$

［解　説］

毎年，出題を見かける有名問題です。誘導も詳しいので，解の道筋は明快です。

６ [2003 九州大]



(1) まず，二項定理より，$0 \leqq k \leqq n-1$, p を自然数として，

$$(k^{\frac{1}{p}}+1)^p \geqq k+1,\ k^{\frac{1}{p}}+1 \geqq (k+1)^{\frac{1}{p}}$$

$$(k+1)^{\frac{1}{p}} - k^{\frac{1}{p}} \leqq 1$$

なお，等号は $p=1$ または $k=0$ のときに成立する。

これより，$k \leqq y \leqq k+1$ において，$y=x^p$ のグラフと交わる単位正方形は，ただ 1 つとなる。したがって，$0 \leqq x \leqq n^{\frac{1}{p}}$ すなわち $0 \leqq y \leqq n$ のとき，$y=x^p$ と交わる単位正方形の個数は n である。

(2) $k \leqq y \leqq k+1$ において，$y=x^p$ のグラフと y 軸にはさまれた部分の面積を $S_{n,\,k}$，この部分にあり，$y=x^p$ と交わらない単位正方形の個数を $M_{n,\,k}$ とすると，

$$1 \times M_{n,\,k} < S_{n,\,k} < 1 \times (M_{n,\,k}+1),\ \sum_{k=0}^{n-1} M_{n,\,k} < \sum_{k=0}^{n-1} S_{n,\,k} < \sum_{k=0}^{n-1}(M_{n,\,k}+1)$$

条件より，$\displaystyle\sum_{k=0}^{n-1} S_{n,\,k} = S_n$，$\displaystyle\sum_{k=0}^{n-1} M_{n,\,k} = M_n$ なので，$M_n < S_n < M_n + n$ である。

また，$\displaystyle S_n = n^{\frac{1}{p}} \cdot n - \int_0^{n^{\frac{1}{p}}} x^p dx = n^{\frac{1}{p}+1} - \frac{1}{p+1}\Big[x^{p+1}\Big]_0^{n^{\frac{1}{p}}} = n^{\frac{1}{p}+1} - \frac{1}{p+1} n^{\frac{1}{p}+1}$

$$= \left(1 - \frac{1}{p+1}\right) n^{\frac{p+1}{p}} = \frac{p}{p+1} n^{\frac{p+1}{p}}$$

(3) $y=k$ 上の格子点の個数は $M_{n,\,k}+1$，$y=n$ 上の格子点の個数は $[\,n^{\frac{1}{p}}\,]+1$ より，

$$L_n = \sum_{k=0}^{n-1}(M_{n,\,k}+1) + [\,n^{\frac{1}{p}}\,]+1 = M_n + n + [\,n^{\frac{1}{p}}\,]+1$$

(2)より，$S_n - n < M_n < S_n$ なので，$S_n + [\,n^{\frac{1}{p}}\,]+1 < L_n < S_n + [\,n^{\frac{1}{p}}\,]+n+1$

さらに，$n^{\frac{1}{p}} - 1 < [\,n^{\frac{1}{p}}\,] \leqq n^{\frac{1}{p}}$ より，$S_n + n^{\frac{1}{p}} < L_n < S_n + n^{\frac{1}{p}} + n + 1$

$$\frac{p}{p+1} n^{\frac{p+1}{p}} + n^{\frac{1}{p}} < L_n < \frac{p}{p+1} n^{\frac{p+1}{p}} + n^{\frac{1}{p}} + n + 1$$

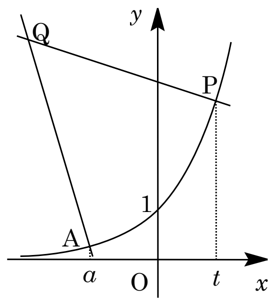
$$\frac{p}{p+1} + n^{-1} < n^{-\frac{p+1}{p}} L_n < \frac{p}{p+1} + n^{-1} + n^{-\frac{1}{p}} + n^{-\frac{p+1}{p}}$$

よって，$\displaystyle\lim_{n\to\infty} n^{-\frac{p+1}{p}} L_n = \frac{p}{p+1}$ である。

［解 説］

S_n，M_n，L_n の 3 者がうまく連関するように誘導がつけられています。

$\boxed{7}$ ［2005 筑波大］



(1) $C: y=e^x$ より，$y'=e^x$

$A(a,\ e^a)$ における法線の方程式は,

$$y-e^a=-\frac{1}{e^a}(x-a)\cdots\cdots\cdots①$$

$P(t,\ e^t)$ における法線の方程式は,

$$y-e^t=-\frac{1}{e^t}(x-t)\cdots\cdots\cdots②$$

②より，$y-e^a+e^a-e^t=-\dfrac{1}{e^t}(x-a+a-t)$

①を代入すると，$-\dfrac{1}{e^a}(x-a)+\dfrac{1}{e^t}(x-a)=e^t-e^a+\dfrac{1}{e^t}(t-a)$

$$x-a=-e^ae^t-e^a\frac{t-a}{e^t-e^a}$$

さて，条件より，$L_a(t)=\sqrt{(x-a)^2+(y-e^a)^2}=\sqrt{(x-a)^2+\dfrac{1}{e^{2a}}(x-a)^2}$

$$=\sqrt{1+\frac{1}{e^{2a}}}\,|x-a|$$

ここで，$\displaystyle\lim_{t\to a}|x-a|=\lim_{t\to a}\left(e^ae^t+e^a\frac{t-a}{e^t-e^a}\right)=(e^a)^2+e^a\cdot\frac{1}{e^a}=e^{2a}+1$ から,

$$r(a)=\lim_{t\to a}L_a(t)=\sqrt{1+\frac{1}{e^{2a}}}(e^{2a}+1)=\frac{\sqrt{(e^{2a}+1)^3}}{e^a}$$

(2) $e^{2a}=s>0$，$f(s)=\dfrac{(s+1)^3}{s}$ とおくと, (1)より，$r(a)=\sqrt{f(s)}$ となる。

$$f'(s)=\frac{3(s+1)^2s-(s+1)^3}{s^2}$$
$$=\frac{(s+1)^2(2s-1)}{s^2}$$

s	0	$\cdots$	$\frac{1}{2}$	$\cdots$
$f'(s)$		$-$	0	$+$
$f(s)$		↘	$\frac{27}{4}$	↗

右表より，$f(s)$ は最小値 $\dfrac{27}{4}$ をとるので,

$r(a)$ の最小値は $\sqrt{\dfrac{27}{4}}=\dfrac{3\sqrt{3}}{2}$ である。

［解 説］

計算量が多いので，少し工夫をしています。なお，$\displaystyle\lim_{t\to a}\frac{t-a}{e^t-e^a}$ は，微分係数の定義を利用して，極限値を求めています。